

NEWS LETTER

Featured person in TAKARAZUKA 渡邊哲意ゼミ 大谷美月 & 池田大輝助教
づからいふ 第 15 話 学祭に命懸け! ? / HOT TOPICS

Stage Performance



今年も宝翔祭が10月25、26日の2日間に渡って開催されました！ステージパフォーマンス、展示や飲食ブースなどに学内外問わず多くの方にお越しいただきました！2日目に行われた「キミとのBestiaire」は演者やスタッフ集め、衣装や台本までプロデュースされたステージ。代表学生は、「最後の宝翔祭で最高な友達、最高なメンバーでステージができたのがとても嬉しく思います。準備はとても大変でしたが、これまでにない思い出ができました」と語っています。

宝翔祭2025

宝翔祭ステージでは、常連から初めての学生までさまざまなチームが出演。各ダンスやバンド演奏などさまざまなジャンルのパフォーマンスで会場を盛り上げました！また、2027年度学部案内表紙デザインコンペの表彰式も行われました。



個性豊かな作品やグッズがぎゅっと集まったブースです！それぞれのキャラクターや、ディスプレイの方法から出展者たちの力量が光ります。



Food



飲食ブースでは、中華ドッグやわらび餅ドリンク、クレープなど多種多様な飲食物が販売されました！お昼時には学生ホールがいっぱいになるほどの来場があり、ブースに近づくととても良いにおいが…。

Art Exhibition



教員が選出した前期授業の優秀作品が展示されていました。毎年前後期でそれぞれ行われており、日頃の学修成果を学内外に発表する機会となっています。同じ授業課題でも学生ごとにアウトプットが大きく異なる点も見どころです！（後期は3月21、22日実施予定）



9月26日、27日で実施された牛乳石鹼共進社株式会社との産学連携イベント「MOO自分にふりまわされない」の成果発表が行われました！参加した学生からイベント当日までの流れが説明され、目標来場者数の達成もあわせて報告されました！

9月に北京で行われた「異文化体験」（教養科目）の成果発表展示が行われました。この授業では中国伝媒大学での研修やフィールドワークを通して、メディア芸術の歴史や中国文化を学びます。調査研究の結果として、日中間の文化比較などが展示、発表されました。





Otani Mitsuki

大谷 美月

東京都出身
2006 年生まれ
東京都立向丘高等学校卒業
渡邊哲意ゼミ 2 年生

Ikeda Hiroki

池田 大輝 助教

東京大学大学院教育学研究科修士課程修了。
修士(教育学)学位取得。
専門は社会学・教育社会学。
2025 年 4 月より本学にて助教を務める。
初年次教育科目を担当。

先輩と先生に注目して宝塚大学を知ろう！

地元の広告に見つけた表現の自由

幼い頃からグラフィックデザインなど芸術系の仕事に関心を持っていました。きっかけは、地元の駅や街中で目にした「広告」です。最近では企業の広告だけでなく、推し活などで個人が制作する、とても自由な広告を目にする機会も増え、その表現の幅広さや枠にとらわれない面白さに、私も自分の手で作りたいと強く感じました。高校時代は3年生まで吹奏楽部に所属しながら、文化祭のポスターや部活のパンフレット制作に携わるなど、デザインへの関心を常に持ち続けていました。そして将来どんな分野に進んだとしても「デザイン」というスキルは必須で、さまざまな応用が利くと考えて、大学でデザインを専門的に学ぶことを決意しました。



他分野との出会いが視界を広げる

数ある芸術大学の中から宝塚大学を選んだのは、「さまざまな分野を学べること」でした。1つの専門分野に集中して学ぶことも魅力的ですが、この大学ではグラフィックデザインだけでなく、舞台芸術や映像、CGなど、他の分野も並行して学ぶことができます。この幅広さが魅力であり、進学の一歩の決め手でした。また、現役のプロとして仕事をされている先生方が多く、「仕事のリアル」を教えてもらえることも、大きな魅力でした。現在はメディアデザイン分野に所属しています。学んでいるのは、ポスターやチラシといったグラフィックデザインが中心ですが2年生になり、ゼミ活動や授業を通して、その視界が大きく広がっています。入学前は純粋に『カッコいいデザイン』を感覚的に追い求めていましたが、今は違います。デザインの基本の

考え方やルールを、第一線で活躍されている先生方から学んでいます。なぜこの色なのか、なぜこの配置なのかという理論を知ることで、今まで感覚でやっていたことが、実は理論にかなったことだったと、自分のデザインに自信が持てるようになりました。



実感するマネジメントと「伝える」ことの難しさ

現在、渡邊哲意ゼミで産学連携活動に積極的に参加しています。実際に販売・配布される印刷物の制作やイベント企画に携わり、「仕事」というものの難しさを感じています。このような案件では、複数人で作業を進める必要があり、タスク管理や計画性が本当に難しいです。急に仕事が増えたり、メンバーとの連携がうまくできなかったり…。経験を積まないとチームのマネジメントはできないと痛感しています。またデザインや写真などの「表現」でも壁に直面しました。ある授業で写真を撮った時、自分では意図した通りに表現できたと思って、見てもらうと意図を説明しないと分かってもらえないことがありました。いかに表現の意図を正確に説明なしで伝えることができるか。「伝わるか伝わらないか」の境目の見極めが、表現の仕事では最も難しい部分だと学ぶことができました。



My Favorite

撮影技術 I

担当教員：神林 優先生

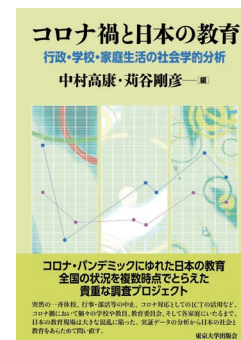


日常を切り取る新しい視点

「何気ない日常の風景が、カメラを通すと全く違って見える」という経験ができるのが、「撮影技術 I」という授業です。テーマを表現するためのモチーフをどう探すか、一枚一枚に意味を持たせて組写真としてどう構成するかに苦労しました。自分が表現したいことが、撮った写真を通して相手に正確に伝わらなかった時に表現の難しさを改めて感じました。でも、だからこそ、この授業で得た新しい視点と伝えることへの意識は、今後のデザイン清濁に絶対に活かせると確信しています。スマホのカメラでも活かせる撮り方のコツなども身につくため、すぐに日々の生活に活用できる点も魅力だと思います。

WORK

書籍『コロナ禍と日本の教育』



コロナ禍が学校教育にもたらした影響を実証データで読み解く

新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年3月から、全国の学校は一斉休校を経験しました。そのとき問題になったのは、休校期間中の学習支援です。この時期から、児童生徒1人につき端末1台を整備しようとする動きが本格化しました。この書籍に掲載されている担当論文では、公立小学校を対象に、コロナ禍前の端末整備状況がその後の授業実践にいかなる影響を与えたか、を分析しました。分析の結果、コロナ禍前に児童用の端末を整備できていなかったという事態が、その後の「図表にまとめる」授業実践を減少させる結果を招いていたこと、が明らかになりました。

教育の現場に立って 見えてきたもの

宝塚大学ではこの春の2025年4月から教えています。東京大学大学院の博士課程に在籍しながら、同時に学生に教えるという生活です。研究と教育の両立は思っていたより大変ですが、日々学生と向き合う中で、自分の中の教育観が少しずつ形になってきたように思います。自分の研究領域に関心を持ったきっかけは、高校生の頃に読んだ『学力と階層』（刈谷剛彦著）という本との出会いでした。その本には幼稚園以来、自分が漠然と感じていた「ルール」がデータ分析により可視化されていました。分析結果の数値が示す残酷な現実を目の当たりにし、教育社会学・データ分析に関心を抱きました。現在は、日本社会における「教育格差の是正」に対する国民意識の特殊性を出発点にして研究を行っています。国際比較によると、特に高等教育について、国も支援しないし国民も「支援すべきだ」と思っていない。そんな状態が続いているのはなぜなのだろうかという点に疑問を持ち、多くの日本国民がそのように考えるに至った合理的な理由があるのではないかと考えるようになりました。その理由は何なのかを解き明かすために、政治哲学の研究者とも共同して研究を進めているところです。



他者の視点を持って、 伝える力を磨く授業

初年次教育科目の「表現とICT」「データ分析入門」「表現思考I」「表現思考II」という4科目を担当しています。WordやExcelの基本操作から統計の基礎、データの可視化、読解力やアウトプット能力の育成まで、これらの授業を通じて幅広い力を身に付けてほしいと考えてい

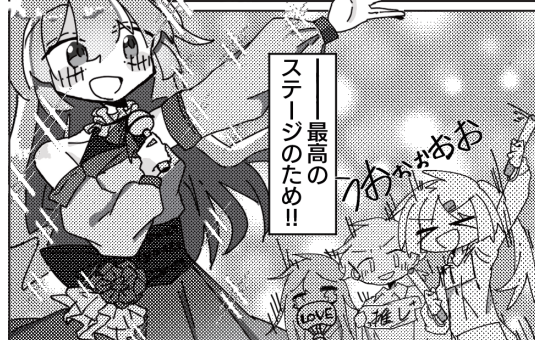
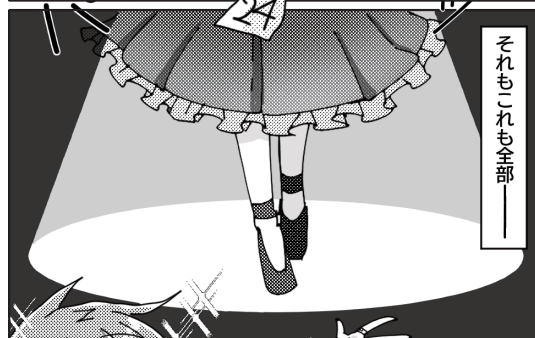
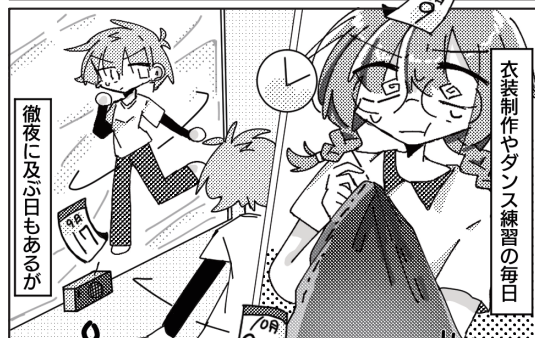
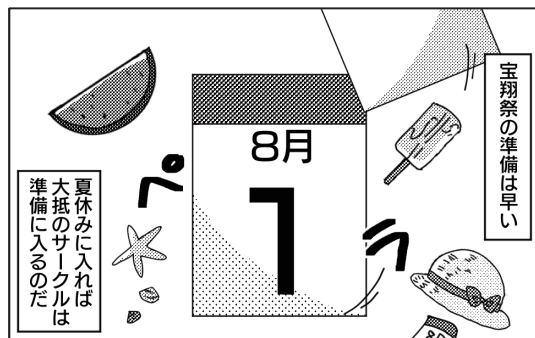
ます。スマホ世代の学生たちにとって、パソコン操作や文章表現は意外とハードルが高いようです。だからこそ、基礎的な技能、知識を身に付けてもらうことで、デザインの力を縁の下から支えたいと思っています。4つの授業に共通しているのは「他者の視点を持つこと」。自分の好きな本をプレゼンテーションする課題では、「どうすれば相手に伝わるか」を考えてもらいます。ただ「好きだ」ということを言うだけでは、伝わらない。だからこそ、相手の視点に立って考える力が必要だと考えています。



「100年後の人が興奮する本」を目指して

学生に身に付けてほしいのは、「職業に直結しなくても、自分が興奮できることに夢中になる」ということです。遠回りに思えることでも、後になってその意味が見えてくる。私自身、はじめは哲学に惹かれて社会学にたどり着きました。今でも、昔読んだ論文を読み返して涙が出ることもあります。そんなふうに、心を動かされる体験をしてほしいんです。また、私自身が目標にしているのは、「100年後の人が読んで興奮する本」を書くことです。最新の考え方や知識はすぐに古くなってしまいうけれど、「近代性を問う視点」などは、時代を超えて残ると思います。そんな、将来にまで生き続ける学問に取り組みたいですね。





作：古山莉奈（3年）

HOT TOPICS

宝塚大学の最新ニュースを(要)check!

「thatgamecompany x LIMITS イラストコンテスト」にてマンガ分野学生が佳作を受賞しました!

「LIMITS全国学生選手権大会2025」のエントリーチームを対象とした「thatgamecompany x LIMITS イラストコンテスト」にてマンガ分野4年周芸錦(シユウゲイキン)チーム名義で寝るのが好きさんが佳作を受賞しました。



川端新さんの漫画『飲み食い道楽〜日本統一〜』が連載開始!

マンガ分野2011年卒業生の川端新さんの漫画『飲み食い道楽〜日本統一〜』が、10月6日(月)より月刊プリンセス11月号にて連載開始しました。この作品はDVD/Blu-rayやテレビドラマ、劇場版を展開する映像作品『日本統一』シリーズの食をメインにした日常系スピンオフ漫画です。同作にも出演する本宮泰風さんが監修を務めます。



赤野天道さんが作画を担当する漫画『蔑まれた令嬢は、第二の人生で憧れの錬金術師の道を選ぶ』第3巻発売!

マンガ分野2012年卒業生赤野天道さんが作画を担当する漫画『蔑まれた令嬢は、第二の人生で憧れの錬金術師の道を選ぶ』夢を叶えた見習い錬金術師の第一歩! 第3巻が、10月17日(金)にKADOKAWAより発売されました。

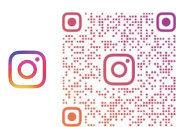


Nintendo Switch™「クーロンズゲート Suzaku」限定パッケージ開発に学生が参加!

ゲーム分野井上幸喜教授が代表取締役を務める株式会社ジエットマンのNintendo Switch™向けクーロンズゲートSuzaku限定パッケージ化プロジェクトにおいて、本学学生が実際の制作および広報に参加しました。本プロジェクトは、本学と企業の両方に所属する井上教授と吉岡章夫教授の主導のもと、産学連携による実務教育の一環として実施されています。



イベントや制作などの様子を学生目線で発信! / 宝塚大学 東京メディア芸術学部 学生広報チーム



ハチ子のアイコンが目印! みんなフォローしてね♡



第16回

宝塚大学 東京メディア芸術学部 / 大学院メディア芸術研究科 卒業修了制作展

2026.2.7 Sat / 8 Sun 【10:00 - 17:00】

宝塚大学 東京新宿キャンパスにて

Access

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7丁目11番1号
JR・都営地下鉄・小田急線・京王線「新宿」駅西口から徒歩5分
西武新宿線「西武新宿」駅から徒歩4分

